

<多良木町・湯前町・水上村／住民>

日 時：令和2年10月30日（金）16時30分～18時50分

会 場：多良木町多目的研修センター2階研修室

参加者：38名

【発言者①】

お世話になります。まさか一番に発言するとは思ってなかったのでちょっと戸惑っていますが、私のほうで取りまとめてきたというか、考えた意見を申し上げたいと思います。

7月4日の話ですけれども、この日は珍しく早起きして、5時20分に起きました。この時期は普通6時過ぎに起きているんですけれども、前日からの雨が気になりまして、田んぼの水を見回りに出かけました。あと高台に、久米地区に家を持っているんですけれども、ここは農業用水が畦を越し、ひどい勢いで水田に水が流れ込んでいました。それから今度は球磨川沿いの牛島に行きました。ここでは6月7日に田植えした田んぼが完全にもう全滅してたんです。そして道路は通行止めです。もう動きません。その時なんですけれども、市房ダムの緊急放流、私は緊急放流ということで書いていますけれども、そのサイレンを聞きましてぞっとしたとを覚えているんです。

これまでも何度か放流のサイレンは聞いていたんですけれども、ちょうど牛島が水にずっと浸かっている時に、何かがすごい迫ってくるようなものすごい緊迫感をもって聞いたのは初めてでした。すごい、恐ろしかったという感覚もっています。

あと、次はもう簡単にいきまして、提案としましては、球磨川流域治水協議会で議論されていると思いますが、ダムの建設より先にすぐにできることから始めてほしいと思っています。

まず一番目に、球磨川上流から下流までの堆積した土砂、それから河原内に発生している樹木の撤去、そして、全域の河川改修、川幅の増幅、河道掘削等をお願いいたします。

二番目が、保水力を高めるための林道整備、これをお願いしたい。そして球磨川流域の山の整備と保全をお願いしたいと思います。林道を整備しないと山を保全できませんので、林道整備を伴ってお願いしたいと。

それから三番目が、長年、球磨川のそれぞれの地域で暮らしておられる方々に意見を聞いたんです。通年の点検、手入れ、この小さな出来事がかなり大きなことにつながっていきますので、小さな小さな積み重ねを大事にさせていただいて、今回大きなことが起きましたけれども、こういったことがないようにぜひ願

いしたいなど。よろしく申し上げます。

【発言者②】

7月4日の水害では、私の地区では柳橋川と水田の排水路の氾濫で23戸の床上、床下浸水をしました。

それと本流との合流地点、川底に堆積した土砂の浚渫が必要だと思っております。

堤防のかさ上げといっても、かさ上げした場合は水位が上がります。

他のところでどこかで必ず噴出すると思っておりますので、川底の浚渫をお願いしたいと思っております。以上です。

【発言者③】

ただ一点でございます。

この今までの会議、相当会議を重ねておられますが、そのメンバーのなかに、山野関係、山林関係、営林局といいますか、そことか森林組合とか全然入ってないです。これが私は不思議でならないですが。山と川は一体だと思っております。

私は、よく山が好きで遊びに行きますが、山の材木の切り出しは、昔は索道でやっていたから、山が荒れることはあまりなかったです。

ですが今は、みんなブルが入って、切り出す際は、螺旋状に山をとっていきます。そのためにブルが通ったところが、結局自然のダムのようになってそれから溢れて、もうダムがいくつもあるような感じでして、それとやはり費用対効果がないせいか山に木が放置してあります。それがやはり大雨のときに川まで流れて、テレビ等で見ますと、かなりの流木があります。あれはどこから流れてくるんだろうかと、みんな山崩れで流れてきたものばかりじゃなくて、もう切ったのが相当あると。それが水とともに、橋桁とか、いろんなところに、負荷がかかって、そこがダムになって、溢れるというような、私はそういう考えももっています。

やはり、そういう山林関係の方も、言いにくいけれども、監督機関の方にそういう対策もお願いしてはどうかということでございます。以上です。

【発言者④】

多良木9区の2、牛島地区の〇〇と申します。よろしく申し上げます。

5点ほどお願いを申し上げたいと思いますが、その前に牛島地区の現状、それから今回の豪雨による浸水状況を簡単に述べさせていただきたいと思っております。

今回、治水対策に対する要望、提案をするにあたりまして、牛島地区の樋門管理人、それから地区の長老、長年、牛島地区に住んでおられる方々、約10名の

意見をお聞きしました。それを踏まえて申しあげさせていただきます。

牛島地区は昔、水害の常襲地帯といわれておりました。球磨川のすぐそばに住んでおりました私も、幼い頃、床上浸水を経験した覚えがあります。昭和35年に完成した市房ダム、その後の球磨川改修事業で築造された堤防により、その後、球磨川本流からの浸水被害は発生しておりません。堤防は自転車道でさらに、現在強化されております。

しかし、昔からすると先ほども言われておりますように、球磨川の形状が大きく変わり、牛島地区では特に左岸側に大量の土砂が堆積し、樹木や草が生い茂り、川全体が土砂の堆積により川底が上がったように感じます。

昨年末から今年にかけて、天子橋上流の河道掘削、河床掘削をしていただきましたが、そのおかげで今回の豪雨による球磨川からの浸水を逃れたのではないかと考えております。

しかしまた、今回の豪雨で土砂がかなり堆積しております。

今回は避難指示が発出されたため、全戸避難しましたが、幸いにして牛島地区は住宅の浸水はかろうじて逃れました。

地理的に下流に向かって低くなっていますので、多良木町有数の企業、宮本電機牛島工場付近から市街一帯は完全に冠水し、宮本電機は地上げ、かさ上げしてあるため、事なきを得ましたけれども、周りの水田は一面湖状態となり、特に葉タバコは壊滅状態でした。

牛島地区には5か所の樋門、約2キロ余りの間に5つの樋門がありますが、球磨川の水位が上がり、逆流が始まったため、全ての樋門を閉めざるを得ませんでした。

また一番下流にある樋門の排水溝が非常に小さいため、球磨川の水位が下がった後もなかなか水が捌け切らず、一帯は長い間水が貯まっておりました。

それでは要望事項を申し上げさせていただきます。5点です。

まず1点目、安心して住み続けることができますように、一番効果的な河床掘削を今後も継続して実施していただきたいと思っております。

2番目、王宮神社の対岸付近はカーブしており、堤防が低くなっております。

7月4日、現地見ましたところ、あと数十センチで超える状況でした。

今回は市房ダムが緊急放流をギリギリまで持ちこたえ、洪水調節機能を大いに発揮し、越水をまぬがれたと思っております。この部分の堤防のかさ上げをお願いしたいと思います。

3つ目、5か所全部の樋門で逆流が始まったため、全部の樋門を閉めざるを得なくなりましたが、雨がもうちょっと降り続けば球磨川に通じる河川や水路から水が溢れ出し、ダムの緊急放流などで住宅への被害は避けられず、今思っても恐ろしくなります。

先ほど申し上げました一番下流の樋門を大きくしていただきますよう、よろしく申し上げます。

4つ目、支流の柳橋川も東地区のほうから越水し、牛島下流域に流れ込んできました。中小河川の改修も合わせてお願いしたいと思います。

最後に余計なことかもしれませんが、市房ダムの建設後50年を経過しております。ダム湖の浚渫も検討すべきではないかという意見もありました。以上です。

【発言者⑤】

黒肥地1区〇〇といます。

今日はこういう会に出席させていただきましたが、まずは人吉から下の球磨川下流は下球磨のほうが大変な災害にあっているという現状です。それには最善の対応をやってほしいというのが第一です。

そして、私たち上流のほうにおいては、国土強靱化ということで、牛島近辺の土砂を取っていただいた。そういったのでかなりの危険から守られたような気がします。今、この水害で流れ込んだ土砂をまず撤去していただくことに最善の力を入れていただきたいということです。

そういったなかで、私の近くに牛繰川という川があります。球磨川の支流です。この資料の中にも入れていただいておりますが、それこそ気象現象の変化で、甚大な災害が、多分今からも100年に1回どころじゃなく毎年、起きるかもしれません。この牛繰川の一つにとっても、やはり関係するのは山です。

先ほど言われた人もおられました。治山も大事だと思います。特に人吉球磨、多良木においても、豊かな山が残っております。山に登れば山に力を入れておられませんので、それこそ間伐材とか。これはこの頃始まった話ではございません。

そういったところを直すことが、ダムなしでこの水害を防ぐ一つの対策にもなろうかと思えます。

黒肥地に帰りますが、百太郎溝、幸野溝もありますけれども、私たちの地区に、鮎之瀬という溝もあります。これは近々、もう古くなって、U字溝等の埋設の準備、計画があるというようなことを伝え聞いておりますが、これにもそれこそ青蓮寺の上から、小さな山から水が流入して、その鮎之瀬、また球磨川から流れ込んだ分で近くの田んぼが浸水したというような状態です。まず、そういった流入した土砂を取っていただきたいと思えます。

そういったなかで、復興のなかでその山を生かす。それこそ復興有識者会議のなかにもありました。人吉球磨は山です。多良木からいえば、槻木の山、多良木の8割以上が槻木地区に山林を有しています。皆さん、森林組合関係から聞けば、槻木の山はよか山ばいって、よく聞けば、今はなくなったですが、小林のほうに

須木村、須木村は小林と合併したんですが、須木村に自衛隊を入れて道を作って、槻木の木を日南やら、宮崎のほうに運んで、宮崎材というようなことでやってるという話を聞いたことがあります。

そういった多良木の山をより生かすためには、中河間多良木線、その以前に昭和60年前後だったと思いますが、これはちょっと生身の話をしませんが、当時の江藤建設大臣が建設されているんです。東家衆議院議員と、とにかく槻木トンネルができるばいと、その当時の久保田町長が私に語ってくれたことがありました。

それ以来、そのトンネルの話はうやむやになっていますが、復興をするためには山を生かす。そのためには多良木においては、県道中河間線、国の道ではございませんので、県のご尽力で、復興のなかの山を活かす。槻木の山を活用する意味でも、今後の経済向上のためにも、そういった尽力、そういった発想をしてほしいと思います。

そのもとはこの湯前線、今くま川鉄道といいますが、この鉄道も球磨郡の山を運搬するためにできたような、そういった経済効果をもたらした山です。そういったところを思ったときに、今言いました槻木のトンネルが出てくるわけです。

それが一つの復興の策になるんじゃないかなと思うので、そういうところを踏まえた復興、そして今はまず土砂災害の撤去と、下球磨の大変な状況を、とにかく一日でも早い復興に尽力していただくことをお願いして、私の意見に代えさせていただきます。以上です。

【発言者⑥】

黒肥地2区の〇〇と申します。よろしくお願いたします。

今回の豪雨によりまして、私が町のほうから委託受けております地域は、球磨川と支流の仁原川が循環をしております。

球磨川の増水によって残念ながら樋門が閉まって、内水が溢れ出る。残念ながら数件ですけれども、浸水被害が発生した。

そのなかにおいても、農機具類もダメになったところもあったということがあります。

球磨川が増水するということは当然ですけれども、バックウォーター現象が発生すると、支流の仁原川も当然溢れてくるということになるわけです。

私が担当している地域は、球磨川と仁原川、両方循環しておりますので、増水することによって地区全体が浸水する、大きな被害を受ける可能性があるということなんです。

それにつきましてお願いしたいのは、最初からずっと皆さん、お話をされていますように、まず河道掘削、樹木の撤去、それとやはり川幅の拡張、そういう諸々

のものをまずお願いしたい。そのように思っています。

川の水が増水するというのをできるだけ避けていただきたい、というのが本音です。

増水するのを避けるために堤防をかさ上げするとおっしゃるかも知れませんが、じゃあその堤防が崩壊する恐れというものはないのかといわれれば、それもゼロではないと思うんです。

ですから、今回の豪雨では、私どもの地区ではなんとか堤防というのは持ちこたえてくれましたけれども、今後、それが耐えられるという保証はどこにもないんです。

ですから、できるだけ多くの流量、下流のほうには申し訳ない。視野の狭いお願いではありますが、とにかく流量を確保するというをお願いしたいと思います。

それともう一点、ダムの緊急放流。緊急放流ではないよというお話ございましたけれども、緊急放流がされるという情報が流れて、ものすごく大きな恐怖を抱きました。

緊急放流をするということは、下流を犠牲にしてダムを守るという、そのような認識を住民の皆さん持つわけなんです。

そういう意味じゃないと先ほどの説明でございましたけれども、ただ、緊急放流をされますと確かに増水します。

増水するという事は、先ほど申しましたようにバックウォーター現象とか諸々の状況が発生して甚大な被害を我々は被るということ。

ですから、事前にやはり調整水量の操作をしていただいて、緊急放流をしないで済むような状況というものを作っていただきたいと思います。

これ以上このような恐怖感を持つというのは、ごめん被りたいと思っておりますので、その点をよろしくお願いいたします。以上です。

【発言者⑦】

黒肥地3区の〇〇といいます。よろしく申し上げます。

私のところは、わりに高台にあるということで、大した被害はなかったわけですが、先ほどから出ておりましたようなことで、やはり球磨川の土砂の堆積、それから流木とか大分たまっておりました。

今回、大分流れておりますけれども、まだ、流木も残っております。

やはりそれらの除去あたりをやっていただけたらと考えております。

それから地球温暖化ということで、毎年、今年の豪雨に相当する雨も降る可能性もあると思いますので、やはり抜本的に考えていかないとダメではないかなと思います。

ダム問題も然りですけれども、やはり人吉球磨に降った雨が全て球磨川に流れ込んで、それが人吉を通過して、球磨川を通過して、八代に流れ込んでおりますので、これはできる、できないか別として、人吉の下流から不知火海ですか、芦北のほうに隧道で抜かすというようなことは、できる、できないかは別として、そういうのもあるかなというふうに思っておりました。

私のほうからはもう、先ほど、同じ意見出ておりましたので、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

【発言者⑧】

〇〇と申します。よろしく申し上げます。

私のほうからは7月の豪雨災害以降に、多良木町を中心になんですけれども、それとは別に人吉市や球磨村社協が運営する災害ボランティアセンターにもかかわっておりますので、そこで感じたことをご意見として述べさせていただきたいと思っております。

まず7月の災害のあと、多良木町内でも高齢者のお一人暮らしの世帯など、数軒ではございましたが、床上浸水等の被害が出ておりました。

そうしたことから多良木町のほうでも災害ボランティアセンターのほうを立ち上げさせていただきまして、町内の災害ボランティアの皆様と一緒に支援のほうを行いました。

またそれと同時に、人吉市、球磨村社協が運営する災害ボランティアセンターのほうに、多良木町の社協職員を応援ということで、のべ100名以上、派遣をしております。

そういった活動のなかでなんですけれども、災害ボランティアの方たちがお話しされるのを聞く機会がございまして、もちろん被災者がいらっしゃる場所でなんですけれども、被災者の方が被災を受けられた場所で生活を再建されるのを見て、あつてはならないんですけれども、来年も同様に水害が来るんじゃないかということをととても心配され、被災者の方は不安に思われているんじゃないかというような話を聞く機会があります。

そのようなことから県の皆様にぜひお願いしたいのが、ダムによる治水対策、ダムによらない治水対策、あると思っております。その他にもいろいろと、治水対策、あると思うんですけれども、できれば被災者の方が、こういう治水対策が取られたので、大丈夫だ、安心する、というようなわかりやすい対策を、なるべく早く打ち出していただいて、迅速に実施していただきたいというふうに考えております。

それが私たちが日頃から支援している被災者の方の普段の生活の安心につながると思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【発言者⑨】

今日は会長が出席できないので私が代わりに来たんですけども、会長とも、いろいろ電話で話したり、他にもいろいろな保護者の方に話を聞いたんですけども、まず言われたのが、多良木とは関係ないんですけども、球磨中央高校開校時に球磨中央高校は沈まないと言われていたんです。県の方が断言されました。でも今回、沈んでいます。

それで、もしこれが平日だったら、平日の昼間だったらと思うと、とても怖かったっておっしゃられた保護者の方がいらっしゃいました。

多良木高校は、今、もう被災もせずに、球磨村から住んでおられたりしますけれども、そういうのが使えたときは本当にいいと思ったんですけども、この中央高校が被災したということについて、どう思われているのかもちょっと考えてほしいとも言われました。

川底の掘削。毎年梅雨は必ず来るんで、今のままの状態だったら支流のほうとか、特に結構川底が上がってきているのは見てわかると思うので、公立病院の前とか見てもらえばすぐわかると思うので、もうその地域に住んでいる方はすごい恐怖だと思います。

あと、県とは関係ないんですけども、被災された保護者の人とも話す機会があって、言われたのが、町役場の対応の悪さと、遅さと、もう手続きが大変すぎて補助金を貰おうと思っても、もう断ったと言われた保護者の方もいられたので、その辺がちゃんとスムーズにできるように対策をお願いしたいと思います。

川とかも大事なんですけども、そこら辺の溝、そこが結構溢れたりするんです。

子どもたち、通っている通学路、危ないところも結構あるし、まだ、三角コーンを立てて危ないみたいなどころもあるんで、その辺の道路整備もきちんとしてほしいなと思います。以上です。

【発言者⑩】

〇〇です。よろしくお願いします。

私のほうからはただ一言ですが、住民が安心・安全に暮らせるまちづくりを支援し、早く復興していただきたいと思います。

いろんな検討や対策ございますが、早めに行動に移してもらいたいと思います。以上です。

【発言者⑪】

私が4分団の〇〇といます。

私が担当しているところが、一応、多良木9区の1と、9区の2です。下鶴地区と牛島地区にあたります。

先ほどから言ってらっしゃるんですけども、一応、河川掘削が主になると思います。

私が感じたのは、去年から一応、国土強靱化計画ということで、県に発注して河川掘削されたと思うんですけども、実際に柳橋川、牛繰川に対しては水面から10センチ以内という計画で掘削をされてるんです。

それに対して球磨川は、表面だけを取るようなかたちの掘削だったもんですから、全体的に球磨川も水面ギリギリの河川掘削をしていただいたほうが、水の道も大分うまくいくのかなと思っております。

これからもまだこういう豪雨が来ないとは限りませんので、そういうところに力を入れていただきたいなと思っております。以上です。

【発言者⑫】

多良木町消防団の〇〇です。

私が担当しているところは球磨川の流域で、当日は球磨川の樋門において排水作業をしておりました。

一応状態を申し上げますと、午前2時頃にパトロールして、水門付近、異常を認められませんでしたので、その他の避難作業、呼び掛け作業などをしておりましたが、午前4時頃、住民の方から連絡がありまして、水門へ向かいましたら、もう樋門よりも球磨川が高く上がっているような状態でした。

本当にあつという間、というような表現が適切かと思うぐらい球磨川があつという間に上がりまして、明け方、まだ暗い時間ということもありまして、特にそれに対する対応というのもほとんどできない状態でした。

それから周辺の住宅への浸水がありましたので、消防ポンプを用いて球磨川への排水を行いました。

明るくなってきて球磨川が見えたときには、もう堤防まで1メートルない状態で、50センチとかいう状態でした。

地域の方の生命、身体、財産を守るという消防団の理念のもと、排水作業を行いました。結果、その排水した水も下流で猛威をふるったということを考えますと、いろんなことを考えたりもするんですけども、ちょっとこれは治水とは直接関係ないのかもしれませんが、私の担当する地域は、特に地域性もあるのかもしれないんですが、非常に住民の方が避難をしてくださらないんです。

一軒一軒呼び掛けたり、回ったりするんですけども、なかなか避難していただけでなく、かなり時間を取られてしまったりして、そういったこともありまして、どうしてかなということでも住民の方にお聞きするんですけども、やはり避

難所には居づらいとか、体が辛いとか、おっしゃる方も大分おられます。

実際、消防署のほうで救助された方をその避難所のほうまでお連れしたんですけれども、その方が体が不自由な方で、避難所に連れて行ったんですが車椅子もない、担架もないということで、仕方ないので毛布を持ってきてもらって、上に乗っていただいて、引きずるようにして運んだりとか、そういう状態。

他の方もそのときに見たら、持参した薄い布団を敷いて、そこにただ座ってもらうというかたちでしたので、治水ということではないのかもしれませんが、やはり生命を守るためには、やはり避難所の整備のほうもしっかりしていただきたいなと思ったところでした。以上です。

【発言者⑬】

百太郎溝土地改良区の〇〇です。よろしく申し上げます。百太郎溝におきましては、もう3年連続の越水被害を起こしております。というのも、かなりの量が多くなっているのです。洪水時期の雨量が。

それで私たちも用水に関しての仕事がほとんどしないといけないのですけれども、今になれば治水とか防災、減災に対しての力を入れなければ、やはり多良木町の流れている百太郎溝の水ですので、そっちのほうに住民に迷惑をかける。

先ほども言われたように、大小用水路がありますので、そこがほとんど溢れてしまうんです。それによって雨量も多いし、そうすると山が崩れて先ほども言われたように、山の整理ができてないということで、土砂の流出が年々多くなっております。それで対応するその労力と費用が大分加算しております。

それとダムが悪い、悪いとみんな言われますけれども、用水に関しても十分私たちはダムの恩恵を受けておると思います。

それというのも、私住んでいるところはあさぎり町の免田なのです。免田川と球磨川のちょうどそこそそ一番打ち出しというところなんですけれども、清願寺ダムができる前は免田川も氾濫寸前の大きな雨量だったんです。

そしたら私たちも清願寺ダムができるときはものすごく不安でした。そのダムで洪水ができるほどはたまるものではないと思ってましたけれども、清願寺のダムができてから、今度の雨量でも今までに見た雨量よりも、少なかったのです。ダムができてからほぼ安心とまでは言えないですけれども、十分ダムで雨量の調整ができると私は実感しております。

それから要望としては、私たちは用水路ですけれども、先ほども言われたように、やはり浚渫をしなければなりません。大小河川の浚渫と、それからどうせ山から流れて荒れたら、山からの土砂の流出が多いので、そのほうも十分考えていただきたいと思います。終わります。

【発言者⑭】

湯前町の区長会の〇〇です。よろしく申し上げます。

今回の7月の豪雨災害につきましては、湯前町では幸いにして人的被害はございませんでした。ただし、人吉市においては、多数の方が亡くなられ、また2名の方が行方不明ということで非常に心配をしております。

先ほどから、山の手入れが行き届いてないということがありましたけれども、私も今度の災害に遭いまして、つくづくそう思いました。球磨川の支流には相当数の砂防堰堤があると思います。

また山林も、間伐とか何とかで切って、木もそのまま放置してあるような状態、それが水門やら何やらに引っかかって、土石が溜まるのは、もうどうにもできないような状態のところ、2、3か所、私の地域でも出てきました。

先ほどから自主防災の件で話をされたところもありましたけれども、私のところでは5時半ぐらいから役員の方に出てください、要支援者の方をまず優先的に見てくださいということでお願いをし、できたら避難をさせてくださいということでお願いをしたのですけれども、これぐらいの雨では今まで災害はなかったのだから大丈夫だ、嫌だということで、なかなか高齢者の方は避難をしませんでした。

ただし、2日目からは流木がきて、上に大きなダムみたいなものができましたから、2日間ほど親戚の方に避難をしていただくようお願いをして、そこに預けたというのが実情です。

先ほどから言っておりますけれども、砂防ダムの砂利、そういうところの撤去を大至急やっていただきたいと思っております。それと山の手入れ、これを大至急、明日からでもやってほしいと思っております。

今のまま放置しておきますと、今後の大雨のときには、またこれの繰り返しです。それとライフラインの復旧です。くま川鉄道を早く復旧してください。子どもたちやら高齢者の方、また保護者の方は大変に困っておられます。重ねてお願いをして終わります。ありがとうございました。

【発言者⑮】

湯前町の〇〇といいます。今回の水害に対しては、私たちの地区は里宮神社の下にあって、ちょっと高台にあるものですから、民家の被害がほとんどなかったのですけれども、球磨川と水上村の小川内川に、地区の人で田んぼ持っている人あたりは堤防決壊して、大分埋まっています。それで今回の出た水量を見ますと、徹底してやるなら恐らく東北地震の護岸の堤防よりも、まだ高く上げなければいけないと思います。それで、できれば河川の拡張、とくに人吉あたりは人吉城

跡がありますので、そこの石垣が球磨川とつながっていますので、そこらの掘削ができない場合は、国道側のほうの河川の拡張なんかもしてもらいたと思います。それと球磨村あたりは、川辺川ダムができるという予定で民家がほとんど上がったです。

そういうふうに、今から先はモンスーン気候みたいになって、降水量がものすごい水量になると思います。そういうのを少し考えて道路自体を上げて、住民を全部上に上げると。そういうのも考えてもらいたと思います。

それと今度の雨で一番感じたのは、私、日本ミツバチを飼っています。それで湯前の横谷に昔、小学校の分校があったのですけれども、そっちのほうにいく旧国道219号は4カ所ばかりで、今まで見たことのないような崩壊をしています。

それと営林署の道路のほうに行くと、柵が1カ所一番最初にくえています。それを止まって見上げた時に、砂防堰堤ダムの壊れた破片というか、コンクリの5メートルくらいの石とコンクリが上に乗ったような感じ。いつ落ちてもおかしくないような感じで、そこから先は全然行けないようになっている。

とにかく降水量がひどいので、これはもう今から先、どんどん多くはなっても、少なくなるということはないと思います。昔みたいに気温が下がれば、そういうことも考えられますけれども、もう恐らくこれは下がらないと思いますので、降水量は相当な量になってくると思いますので、そういうのを踏まえての対策をお願いします。以上です。

【発言者⑯】

湯前民児協の〇〇と申します。今回の豪雨に際しまして、私は仕事の関係上、湯前町と水上村の境の佐本橋を通っているのですけれども、今の小学校のところで、小川内川の堤防決壊、これは本当今まで見たことのないようなひどい状況で、水の力というのは大変なものだと強く思いました。

それから佐本橋の下ですけれども、昭和40年だったですか、私がまだ若かりし頃消防団で、佐本橋の下の鷺木橋を、消防を務めていたときに見に行きました。

そこはもう全面堤防が決壊して、水田が全部水浸しになった状態だったのですけれども、今回は堤防を強化された関係か、そういうことはなかったのです。その下の古淵橋ですけれども、ここは都川からの流水が球磨川と合流して、土砂が今まで深い淵みたいになっていたのが、完全に露出するように、川の流れが都川も、もちろん川の流れが全然昔と変わって、この水害前からすると変わりました。

私が思うのには、ここ数年、橋の強化のため、ほとんど橋の調査されておられたようですけれども、古淵橋にしても鷺木橋にしても、鉄骨みたいなので造って

あったり、今度の水害で相当ダメージを受けているんじゃないかなと懸念するわけです。

それでまた続けてやるというのも大変なことかもしれませんが、この辺を十分検討してもらいたいというところがあります。

それと、いつも球磨川沿いを通っておりますと、須恵付近から上流の湯前の方面にかけて昔から古参竹ですか、竹藪というか、あれが護岸にあったわけです。それをほとんど撤去、伐採されているのですけれども、これは増水したときに、水の流れを緩和するというか、そういう役目もあるのではないかなと。あれがないと景観的には球磨川もよく見えるのですけれども、私個人としては、そういうところも残して、そして増水したときにしか効果はないと思いますけれども、そういった流水を和らげるというのにも影響があるのではないかなと思っております。先ほども出ておりましたように、川床の掘削、これも十分やっていただければと思っております。以上です。

【発言者⑰】

よろしく願いいたします。先ほども話が出ましたように、湯前は上流のほうですので、言い方は悪いですがけれども大した被害はなかったんです。

ただ、私の会員さんのところに、川から遠いところから水が来て、床下浸水とかしているところがあって、「どうして水が来たかね」と聞いたら、川じゃなくて裏の細い溝からあふれて裏から入ってきたと。そういうふうに溝なんかもきれいに今整備されて、コンクリートなんかでされてますけれども、そうすることによって、そういう溝も幅が狭くなってくるし、それから何度もたくさんの方が言われましたけれども、やはり川底の土砂です。定期的に掘削されたり、堤防をかさ上げされているのは、この説明資料でよくわかりましたけれども、それも追いつかないくらいにやはり年々、雨の量も増えて、川の形も変わってきているのは間違いないと思うのです。

例えば、そこの黒肥地を流れる球磨川は、私は多良木の元出身なので、川幅のいっぱい、水の量は少なくても、川いっぱい綺麗な水が流れていて、本当に三大急流、球磨川というのにふさわしい形をしていたと思いますが、今は川の形も変形して、あっちぶつかり、こっちぶつかり、今の時期には川の半分ぐらいしか水が流れていなくて、どうかすると向こう岸まで歩いていけるように川底が厚くなってきているのは絶対に間違いないです。

ですから、ダムの云々は、私はよく分かりませんが、みんなでいっぺんにできるのは、例えば年に一回、県からのクリーン・クリーン作戦ってあります。ああいうときに、今はもうどこもきれいになっていますので、草をむしったりとか川に落ちているビニールとか、農家の人から流れてきたそういうのを取るの

が主な仕事というか作業ですけれども、そういうのを川底をいっぺんにみんな
でやるというようなのを、一年に一回でもそういうことをして行って、住民がみ
んなでそういう作業をしたらどうかと思います。

本当に今の球磨川は一昔前の球磨川と全く川の流れも形も変わっていますし、
そういうふうに川でないところから水が来るというのは、結局、そういうのが溜
まって、川がスムーズに流れなくなると、溝のほうに入ったり、溝が氾濫したりし
て、変なところから水が上がって来るんじゃないかと思うのです。

だから、この間、くま川鉄道の沿線もこのままではいけないということで、住
民が一斉に出て、あさぎりから湯前は除草作業をしましたけれども、元々車が
通っていたみたいなの、私の家が踏切の近くですので、それまではこのままでは廃
線とわれてもしょうがなかというように、茂っていた草が見る間に一日でき
れいになりました。

こういうふうに、みんなのできることから始めていけば、大きな金をかけてダ
ムを造るとか造らないという前に、住民が一斉にそういう線路の草払いをした
ように、川底を上げる、川底の土砂をさらうというのをできるだけの人が、でき
るときにやってくれれば、川も元のきれいな流れを取り戻すのではないかなと
つくづく思っています。以上です。

【発言者⑱】

湯前町の〇〇といいます。今回はじめて、線状降水帯、7月4日前から水害が
起きるとは思っていましたけれども、7月4日の2、3時間の集中的な線状降水
帯を経験して、こんな怖いことは経験したことはなかったです。ただ、6時から
8時、たった2時間の間で私の球磨村の知り合いの人は、この2時間内で9メー
トル水位が上がったと。そう聞きました。この線状降水帯でも、球磨人吉では、
各地域によっては雨量は違うと思います。その雨量がわかれば教えてもらえれ
ば、助かります。その一番ひどい雨量が、もし市房ダムの上流に水上、湯前、多
良木にもし降った場合、そのときの被害はどのぐらい起きるのか、またそのとき
に市房ダムがもし緊急放流した場合、その水害がどれほどになるか、またそれも
詳しく知りたいです。

もし、今後また水害が起きるとは言いたくないですけれども、また来ると思
います。線状降水帯は。そのときにどう動いていくのか、それを詳しく知りたいと
思います。以上です。お願いします。

【発言者⑲】

はい。湯前町PTAの〇〇です。私からは5点ほどご提案をさせていただき
たいと思います。

P T A会からしますと、今、くま川鉄道が休み、災害のため動いておりませんが、その間、バスを利用して子どもたちは通学をしているわけでございます。土日にバスが動かないので、子どもたちを送迎するのは保護者がやっております。そこがちょっと土日でもできたら子どもたちのためにバスを動かしてほしいなというふうに思っております。

あと、先ほど、多良木町の方からも出ましたが、球磨中央高校が災害が起きて、まだ環境整備ができていない状態でもあるというのを保護者からも聞いておりますので、そちらの復旧のほうを迅速にさせていただきまして、子どもたちが学校で楽しく生活できるように整備のほうをしてほしいなというふうに思います。

あと、皆さんもおっしゃっておられますように、球磨川の支流の土砂の整備などを早めにしていただきまして、また来年こういう天気があるかもしれませんので、そういうときのために、早急に土砂の撤去をしてほしいなというふうに思います。

あと、今回の豪雨災害で先ほども言われましたように、木の切り株などが流れて、それが橋にひっかかって川の水が氾濫したというふうに言われておりましたので、地元でもそういう被害がっておりますので、そちらのほうの山の環境整備を検討していただければなと思います。

最後に、こういう雨量が多い時期でないときでも、球磨村は球磨川の増水で氾濫することが多々あっておりますので、球磨村を通る球磨川がもう少し環境整備をしていただくと、スムーズに球磨川が流れていくのではないかなというふうに思っておりますので、そちらの整備のほうもしていただければなというふうに思います。私からは以上です。終わります。

【発言者⑳】

湯前の〇〇と申します。私は湯前に住んでおまして、仕事場は多良木町でございます。おまけに河川敷でございますが、毎年、毎年心配しているのですが、仕事を始めて30年以上経つのですけれども、今まで何回か被災しております。

その過去を振り返ると、だんだんだんだん被害の状況が大きくなっているように感じるところでございまして、このままだと本当に心配しているのですが、毎年行われる防災会議で、ダム管理の仕方とかはしっかり理解しているつもりではありますが、それでも今度みたいな非常にたくさんの雨が降ると、被災したわけです。人命尊重、人命が第一ですから、それを守るためには、もうちょっと有効にというか、ちょっと考えは突飛ですけれども、あらかじめダムの水をゼロにするぐらいのちょっと突飛な考えかもしれません。すぐにはできないとは思いますが、水が止まる、水がなくなると発電が止まったりするのですが、発

電が止まると困るような病院とか、老人介護施設とか、警察署、消防署、そういう困るところは、自家発電設備などを、今からずっとソーラーで設置していただきまして、そうするとダムの水をゼロにするぐらいの思い切った使い方もできるのではないかと。今までの雨を想定した防災とかではなくて、今まで以上の雨が降ることを考えた防災やそういう準備をしないといけないと考えていますので、ダムの管理の仕方とかも、そういった思い切ったやり方もやっていただければなと考えております。以上です。

【発言者⑳】

〇〇です。よろしく申し上げます。

上流域については皆さんおっしゃられたように対策をお願いしたいと思いません。球磨川流域、大変な被害がありました。被害が大きいのが人吉から錦町を含めてですけれども、1、2年でできるわけではないのですが、川辺川ダムの着工、穴あきダムでいいと思いますので、着工していただきたい。また、川辺川を含めた支流、球磨川本流の河道の掘削をお願いしたい。皆さんおっしゃっておりますが。早急に土砂を含めた河道の多めの掘り下げをお願いしたいと思えます。シミュレーションにも出ていますように、浸水の率が下がっていますので、これ以上の掘削をお願いしたいと思えます。以上です。

【発言者㉑】

水土里ネット幸野溝の〇〇と申します。本日は蒲島知事様をはじめ、県の幹部の皆様方の前で発言する機会をいただき、ありがとうございます。

まだ私ども水土里ネットが管理しております百太郎溝、幸野溝は、今から300年以上前に、当時、江戸時代、水戸黄門さんとか8代将軍吉宗、あの方たちがご存命の時代にできた農業用水路でございます。

現在、上中球磨4町、湯前、多良木、あさぎり、錦の約3,400ヘクタールの水田に水を供給いたしております。球磨農業の6割から7割くらいは、この地域からの収入でございます。もう一つあります機能が、大雨非常時の場合は、幹線排水路の役割をしております。そして山からの水を受けとめて、最寄りの河川に流すという防災上重要な役割を果たしております。

私ども、今回、7月の豪雨によりまして、湯前からあさぎり町まで全線にわたり溢水、一次被害が発生をいたしております。3年連続の発生でございます。原因は先ほどたくさんのお話でしたが、やはりうちの場合は左岸、山付きから土砂混じりの濁流が流れ込みます。そして水路に流れ込み、堆積。幸野溝を埋めてその水がはけ切らずに溢水して、床下浸水が数十戸発生をしたという状況でございます。

山の管理につきましても、普通、昔は山の管理といいますのは、(聞き取れず)を引いたりして間伐をやっておりましたが、今は路網です。機械で作業道を作れと言われます。そういうことで山を削りますので、若干、大雨が降った場合はそれを伝って水が流れて来たということもございます。それとか、いのししの被害、鹿の被害等もございます。そういう関係で山が荒れるというところで、山の管理もお願いしたいというふうに考えております。現在のこちらの球磨の林務課と森林整備課のほうで協議をいたしまして、砂防ダムとか治山ダムとか、また土木のほうとも話をして、順次整備をしていただいているところでございます。

これはご提案でございしますが、球磨盆地はラグビーボールみたいなところでございますので、全て最後は球磨川です。それでその球磨川に水を到達する、これを少しでも遅らせるという意味で、私の考えておりますのは、山付きに耕作放棄地がかなりございます。ということで、谷の水を一旦この耕作放棄地とかそういうところに入れ込む。土砂も一緒に入れ込む。そして、その上水を私どもの水路にまた入れ込んで、あとは河川に落とすということのワンクッション、ツークッション、そうしますと土砂の流入が直接河川に流れ込むのを若干少なくなるのではないかと考えてもっております。

現在のあさぎり町長さんとも話をしまして、1か所、あさぎり町岡原地区にそういうモデル地区を県のほうにもお願いして作っていただきたらと思っております。その地区が3年連続の床下浸水が一番ひどいところでございますので、そこをお願いしたいという考えももっております。

それと先ほどからダムのお話が出ておりました。私どもは、水をいただきます市房ダムがでございます。これは命の水溜めでございます。やはりダムと堰というのは全然違います。堰といいますのはいったん球磨川の水を堰き止めているもので、だから貯水能力はございません。ダムのほうは貯水能力は十分にございます。市房ダムは多目的ダムです。

まずは治山です。治水、災害防止、次に農業用水です。この水がなければ球磨農業は駄目です。

次に発電です。それに観光もあります。そういう多目的ダムでやっております。なおかつこの前の7月豪雨の水害におきましては、市房ダムは十二分な機能を発揮したのではないかとこのように私ども土地改良関係者は見ております。それによってダムの恩恵にあずかっておる者の一人でございます。

また、もう一つですが、これもございますが、今日の説明資料、21ページに「異常洪水時防災操作」とございます。「通称 緊急放流」という文言がございしますが、先ほどの話にもございましたが、やはり一般の方は不安です。緊急放流するというのは、ダムの水を全部なくしたろということをおもわれますので、そういう文言を今後考えていただければなという考えももっております。以上です。

【発言者⑳】

水上村の岩野というところの〇〇でございます。ちょっと2、3点お話を申し上げたいと思います。

一つは、球磨川支流の小川内川が崩れた原因は何かというと、直角に曲がっているわけです。川が直角に曲がっている。こういう状態であればあそこが崩れるのはどんなに強化しても、やはり年月が経つとそういう状況が起こるのではないかと思うのです。ああいう川の造り方というのは、もう少し考えていただく必要があるんじゃないかなというふうに感じました。かなりやられておまして、人も困っているような感じ。やはり直角は、ちょっと難しいというふうに思います。

それからダムの有効活用の問題で、先ほど土地改良区の方からもお話がありましたけれども、球磨川の市房ダムは非常に有効に活用されたのではないかなというふうに思います。

ただ、やはり先ほどちょっとお話がありましたように、事前放流、要するに多目的ダムであるがゆえに、こういう緊急時に対応できる状況というのは、もっと研究をする必要があるんじゃないかというふうに思います。それは何かというと、事前放流をしっかりとやはりやらないと。気象の状況もそんなに簡単ではないので難しさはありますけれども、そういった研究というの、これからやってほしいなというふうに思います。

もう一つ、小川内川の球磨川に入るところのちょっと上のほうは、かなり土砂を取ってあったのですが、もう埋まっています。恐らくその土砂というのは、取れば取るほど埋まる率は高くなるのです。どんどんこういう洪水が起こると。そこに土砂がまた溜まってくるわけです。やるのはいいいんだけれども、それを将来的に埋まったときに、どういうふうにしていくかというガイドラインなり、あるいはそういう方策をきちんとやはりしていかないと、今度は埋め戻したら、それをすぐにはやれないんです。何年かかかるわけです。そういった問題をもうちょっと研究をしていく必要があるのではないかというふうに感じております。私からは以上です。

【発言者㉑】

水上村区長会の〇〇です。私は水上の球磨川の上流に住んでいますが、球磨川の川底は昔は大変深かったように思います。今度の豪雨で見に行ったら川床が上がり、ほとんど淵がなくなり、川遊びスポットなんかも全然埋まってしまっております。それで川床の砂利の掘削をお願いしたいと思います。

それと村道ですけれども、2か所に道路に穴が開き、1トン車がやっと通るぐ

らいです。生活道路ですので、早急に工事を始めてもらいたいと思います。以上です。

【発言者⑳】

〇〇です。河川の河床の掘削は、もう全て皆様方が言われておりました。確かに、流域住民の方々が今から先に、帰ってくる、また新たによそから入ってくる。それを望むとすれば、第一番目に河床の掘削です。多分、河床の掘削って簡単に言いますけれども、河床の下のほうの地層はどういうふうになっているのか、そこまで調査して河床の掘削を進めていただきたい。

それから支流です。支流の防災対策も進めていただきたいと思います。今、治山のほうも砂防ダムに砂がずっと入っています。調べてもらうとわかりますが、全て満砂です。満砂。

砂防が満砂になったらどういうふうな状態になるか。それもやはり林務課のほうで調査して、満砂の状態を調査してもらえれば、今後の治山に対する考え方もいろいろと変わってくるんじゃないかなと思います。

要するにすぐやる。すぐやる課というのを昔作ってましたけれども、住民が安心して住むためには、やはり行政のほうで仕事に、球磨郡に、たとえば地域の人も安心するのではないかと思うのです。予算の関係も十分あるかと思えますけれども。仕事になるだけ早く取りかかってもらうということです。以上でございます。

【発言者㉑】

市房ダムの上流に住んでおりますもので、今回、影響がなかったわけですが、とくに一人暮らしの方の安全とか早期避難というのが、やはり第一かなと思います。その点で消防の方が避難所への一人暮らしの方の送迎をやっていただいたことは、本当によかったのではないかと思います。

また、先ほどからいろいろと言われている災害に対しましては、トータルでやっていかなければならないということも多々あると思いますが、私のところは山林に囲まれておりますが、やはり砂防ダムとかいっぱい設置していただいております。そういうなかで、やはり支川におきましては、先ほども出ておりましたが、小さなダムで堰き止め式というのは、災害があるときだけに堰き止めるといようなダムができないものかなという思いも一つあります。

市房ダムにおきましてはかなりの流木が今散乱しておりますし、それがもし下流に流れていったら、それはなおさら大きい被害になったんじゃないかと思えます。

まだ流木の撤去もまだまだなされていないわけですが、ダムの効果というか、それもあつたんじゃないかなと思います。

それと小さな話になるかもわからんですけども、農業をやっておりますんで、新聞に載っておりますが、水田で水を溜める運動というか、10センチ上げたところで100ミリに相当する雨量を溜めることになるかなと思いますが、棚田では難しいかわかりませんが、平地の水田でそういう運動ができればいくらか違ってくるかなと思います。

それとダムの放流方法について、先ほどから説明いただきましたが、普段私は上流に住んでおりまして、ダムの水が表面から見てきれいな状態のときでも、下流域は白濁しているというようなことを見ることがあります。できましたら、環境、清流を守るということでも、澄んだ水の上流からというか、そういう流し方ができるのであれば、できたらいいんじゃないかなと素人考えながら思うわけです。それで、もしダムを永続するならば、大規模な地震とか、それに対応したダムができて安全であればという思いでおります。以上です。

【発言者⑳】

水上村社会福祉協議会の〇〇といいます。よろしく申し上げます。

今回の豪雨災害で本村社協では、人吉・球磨村を中心に、先ほども多良木の〇〇さんからもありましたけれども、ボランティアセンターの設置運営の支援に行っているところでございます。

実際にそういったなかで災害状況、災害に遭われた方々の話を聴いたりすることがあるんですけども、そういった現場、話を聴いたなかでやはり人命を第一に、優先に、考えていくべきだなというところで思ったところでございます。

そのためにはやはり、このような水害や、今後も予想を超える災害が発生するかもしれませんので、あらゆる手立てをしておく必要があると思いますので、やはり水量をコントロールできるようなシステムといいますか、仕組みというのは必要ではないかなと思っております。

同時に環境への整備、対策も行っていく必要もあるのではないかと考えております。

それから先ほどからも話があつておりますが、今回の豪雨で川の流れ、筋が変わったり、土砂等が流れてきておりますので、川底が上がっている部分の対策を行う必要があるのではないかなと思っております。以上です。

【発言者㉑】

まず、復旧についてのお願いなんですけれども、先ほど湯前中学校のPTAの〇〇さんからもありましたとおり、くま川鉄道が不通となっており、復旧の目途

が立っておりません。このくま川鉄道は私どもの地区、特に上球磨3町村においては高校生の通学に欠かすことはできません。

また、昨年3月に多良木高校が閉校となったことから、ますます、くま川鉄道の通学の足としての重要性は高まっていたところです。それが今回の豪雨災害で流出となっている状況です。

現在、代替バスで通学しておりますが、バスは所要時間がやはり鉄道の倍近くかかることから生徒および保護者のさまざまな負担が増えております。それで近年、この人吉・球磨地区においても、地区外の高校に進学する生徒も増えております。

ですから、今のような通学状況が続けば、こういった状況がますます拍車がかかって、地元の高校に行く生徒数が減るんじゃないかなということを懸念しております。

それで、くま川鉄道は復旧まで3、4年を要すると言われておりますが、やはり被害が軽微な肥後西村から湯前間でも早期部分開通はできないものでしょうか。そういった部分開通に向けて、国・県の強力なご支援をよろしく願いいたします。

もう一つが治水対策についてですけれども、私は市房ダムの上流に住んでます。7月4日、昼前に職場がある人吉市に向かいました。そのとき生まれて初めて溢れんばかりの市房ダムを目にしました。緊急放流をせずに、超満水状態のダムを見て、本当によく頑張ってくれたなということで、本当に涙が止まりませんでした。そして人吉に向かったわけですが、そのおかげで大分下流地域は減災になっているんじゃないかということを想像して、人吉に向かったわけなのですけれども、人吉市街の様子はもう私の想像をはるかに超えた、惨憺たる光景でもう愕然としました。行政の最大の使命である住民の生命と財産を安全に守るためには、ソフト面、ハード面の可能な限りの防災・減災対策が必要なのはもちろんだと思います。それで国交省の検証結果にあるように、川辺川ダムがあれば浸水被害を6割減らせたということであれば、川辺川ダム建設は有効な治水対策の一つだと思います。来年またこのように豪雨に見舞われるかもしれません。

治水対策は待ったなしです。スピードを要します。ハード面では球磨川本流・支流の堆積した土砂の掘削・除去、堤防の増強、宅地かさ上げ、治水目的に限定した流水型の穴あきダムの建設など、短期間で住民や専門家の意見を十分聴いていただき、中長期的な治水対策を早急に策定していただきたいと思います。

その治水対策のなかで優先順位を明確にして、速やかにできることから実施していただいて、早く地域住民の方々が安心して暮らせる地域づくりをお願いしたいと思います。以上です。

【発言者⑳】

まず、今回の豪雨災害でダムの必要性を感じますが、皆様が述べられているとおり、まずは河川の掘削が最初だと思っております。

市房ダム上流にも多くの土砂や流木が流れ込んでいて、治水においても能力が落ちると考えております。また、当地区は山間部にあり、多くの小さな谷が存在します。その小さな谷の治山堰堤の工事を行うことも対策の一つと考えております。

最後になりますが、当日は球磨川にかかる水上村から湯前町にかかる全ての橋が通行止めになる状況でした。本当に大変心配したことを思い出します。以上です。

【発言者㉑】

水上村消防団の〇〇です。

私自身の職場も多良木町にありまして、先ほどの湯前町消防団の方と同じ職場なんですけれども、ほぼ全滅状態でした。7月の豪雨から土砂の災害、土砂の撤去等、復旧まで非常に大変でした。今も仕事をしながら球磨川が横に流れていて、仕事しながら川が見えるんですけれども、見るたびにとても不安な気持ちになっております。

今回、大きな被害に遭われた人吉市、球磨村の方々のことを思うと、今後不安が少しでもなくなるように、できるだけ早急にさまざまな河川整備、川辺川ダムの必要性などを検討していただきたいというふうに思っております。以上です。

【発言者㉒】

多良木町在住の〇〇と申します。

まず、今回の豪雨で、私の栗畑の法面が60トン以上崩落して、隣の子ども部屋やトイレ・浴室を直撃し、2か月以上も不自由な生活を強いることになりました。小規模災害に認定されましたが、法面の測量、復旧はこれからであります。以下、3点述べたいと思います。

まず一つ、検証委員会が2回で終了し、新たに治水協議会が始まりましたが、検証に河川工学や治水、気象学など学者・専門家や市民団体の知見も入れて、しっかりとした検証がなされませんでした。何か異なる意見が出ると都合が悪かったのでしょうか。いわば防災のプロではない自治体の首長だけの検証では、国交省や県の見解を追認するしかありません。今、流域市町村長で構成する川辺川ダム建設促進協議会が、当初はダムも含めた治水から、ダムを柱にとトーンを上げて、ダム建設に奔走していますが、そもそも川辺川ダム建設を公約にした首長は一人もいないはずで、私たち住民は、自分の命や財産にかかわる球磨川の

治水を首長に全権委任しているわけではありません。住民への説明や民意の把握なしに、ダム建設に前のめりになっているのは、何か政治的な事情があるのでしょうか。しかも、これらの言動が住民のなかに混乱と分断、対立を持ち込んでいることを自覚すべきです。何よりも被災者置き去りの検証では、適切な治水対策は構築できません。

二つ目。球磨川は私たちの春から秋にかけての遊び場所であり友達でした。水泳ぎ、魚釣りにシジミやウナギ捕り、通学時に橋の上から見る鮎やコイや小魚の群れなど、まさに宝の川でした。市房ダムができて60年、球磨川はダムから排出され続けた汚泥や土砂などの堆積物で川底が高くなって、かわいそうな川になってしまいました。その結果、ダムが洪水の原因を作ってきたように思えます。今や、町を流れる川を、清流などとは恥ずかしくて呼べません。市房ダムによる発電や利水、洪水調整など一定の効果を否定しませんが、ダムがもたらした弊害、ダメージのほうがはるかに大きいのです。知事が「球磨川は守るべき宝」とダム中止を決断されたのは正しかったと思います。今、豪雨後の球磨川は両岸に大きな石ころや流木、瓦礫が堆積したまま放置され、至るところに土砂が堆積し、無残な姿をさらしています。今急ぐべきはダムの議論ではなく、水位低下に効果が大きい堆積土砂の除去や流木・瓦礫の撤去です。川辺川にダムが出来れば、水質日本一の清流も同じ運命を辿ることになるでしょう。鮎、川下り、ラフティングなど、人吉・球磨の観光が衰退すれば、地域復興に重大な影響が出るでしょう。そのとき、どこが、誰が責任を取るのでしょうか。お決まりの、「ご指摘はわからない」「想定外だった」とでも弁解されるのでしょうか。

三つ目。いわゆる緊急放流について述べます。町議会に席をいただいておりますので、9月議会の一般質問で、「緊急放流時の水位上昇や被害をどの程度想定されたのか」との私の質問に、総務課長は「ダム管理所によると、今回は操作を行っていないので想定できていない」との答弁でした。今回、かろうじて緊急放流は免れましたが、放流時に多良木町に何分後にどれだけの洪水が来るのか、堤防を越えた水はどこまで行くのか、避難所が浸水しないかなど、そういう予測ができなければ、町民への緊急通報ができません。命を守るための行動をどのように取ったらいいのか判断できません。

今回、右岸の多良木自動車学園の全車両が浸水しました。その下流の人々は、緊急放流の予告に「覚悟を決めた」、「生きた心地がしなかった」、「ダムは恐ろしい」などと語っています。「今回は操作しなかったから想定しない。川に聞いてくれ」というのでは、あまりにも無責任です。地球温暖化が進み、想定外が日常化しているなか、もし市房・川辺川の両ダムで緊急放流されたらどうなるかなどの不安の声も多く出ています。

今回、市房ダムのダム湖や放流操作などの検証は十分なされたのでしょうか。

ぜひ、知事に丁寧な説明をしていただきたいと思います。以上です。

【発言者⑳】

2001年に、潮谷義子知事は、約3,000人が参加した住民討論集会の初回の場で、5時になって帰ろうとした人たちに、「まだ帰らないでください。論議は続いています。これはガス抜きではありません」とおっしゃいました。

今、被災地では住民がいろいろな意見を注視していますが、多くの被災者は「ダムはいらない」と言っています。賛成・反対、両論あるというより反対が多い、この事実を今日お越しの知事も、市町村長の皆さんも、本気で受け止めていただきたいと思います。

何点かについて申し上げたいと思います。

一つ目は、今回まず、今までもお話は出ていますが、今後起きる洪水は100年に一度、1,000年に一度の洪水で、それが頻繁に起きる可能性が強いと言われています。温暖化が過去の気象状況を全く変えたと言われています。今回、国交省は「川辺川ダムがあったら、浸水面積は6割減っていた。逃げる時間もできた」と言っています。あたかもダムがあれば命が救えたかのように言っています。

しかし、ダムの緊急放流やダムの決壊は、これまでは想定外だったかもしれないけれども、今後は実際に起こりうる事態になっています。川辺川ダムが緊急放流すれば、下流の水位が急激に上がり、4,000トン近くの濁流が下流に流されると言われています。川辺川ダムが緊急放流をして、人命が失われる可能性もあるわけです。命を奪う危険性のあるものを、治水対策のど真ん中に置くことは、許されないのではないのでしょうか。

次に、今回の検証委員会の結果については、市民団体が異論を唱えています。

「流量の想定が違う」、「支流が本流を押し上げて、ダムがあっても被害は防げなかった」こういういろいろな意見があります。河川の技術者は何か対案はあるかと聞かれると、「河床を掘ればよい」と言っています。今日、本当に多くの皆さんがおっしゃったとおりです。人吉地域でも200メートルの長さで河床を3メートル掘れば、ダムと同じような軽減効果があると言っています。国土交通省は人吉での河床掘削は難しいと言っておりますけれども、国土交通省の技術をもってすれば、さまざまな問題も解決して掘ることができると思います。

三つ目。また、川の技術者は「今回八代で氾濫しなかったので、ダムの費用対効果が1を切るために、ダム建設は公共事業として実施することはできないのではないか」と言っています。川辺川ダムは、八代での防災になっていますので、八代で氾濫しなかったから川辺川ダムを造るのは、1の費用対効果を割って、公共事業としては成り立たない、こういう主張をされているわけです。

四番目に、ダムによらない治水対策は、莫大な費用と時間がかかると国土交通省は言っています。しかし、今後の洪水対策が、1,000年に1度の洪水に対する対策になるとすれば、国民の命と財産を守るために、多額の費用がかかるのは当然のこととして受け止めるべきではないのでしょうか。

むしろ、ダム建設を前提にした治水対策は、その前提に基づいた河道や堤防の整備に終わり、根本的な治水対策はとられない可能性があります。今回、新たな流域治水という考えが出ていますが、それも過去のダムの範囲にこだわって、その範囲に終われば結局のところは洪水は防げないということになります。国民の生命と財産を守れずに、国土交通省がそれでも洪水が起きたときに、ダムの効果が期待できなかったという治水対策の言い訳に川辺川ダムが使われる恐れがあるのではないかというふうに思っています。知事や流域の市町村長の皆さんが、川辺川ダム建設を認めないで、多くの方々がおっしゃったように、すぐやれる治水対策に取り組んで、そして人吉でもおっしゃっている復旧・復興、ダム建設よりも復旧や復興に力を入れてほしい。この願いに、ぜひ応えていただきたいというふうに思います。

【発言者③】

私は、〇〇保育園と学童クラブをしております。7月4日の朝、ものすごい雨で雨量が増して、私は本当に恐ろしさを覚えました。黒肥地小学校の校庭から、下の田んぼを見ましたら、田んぼ全部が川になって水が流れていました。裏の県道33号線を見ましたら、その県道33号線が川になって流れていきました。それを見たとき、瞬間的に「これはもうダムでは止まらない水の量だ」というふうに感じました。そして7月4日は土曜日でした。学校はお休みでしたけれども、学童クラブに来る子どもたちと、保育園に来る子どもたちはいました。朝7時の段階で「これはもう無理だ」ということで、緊急に会議をして休園にいたしました。裏の33号線の県道は大人が横切ることできないほどのたくさんの水が川になって流れていました。私、本当に今も見ると、皆さんが言われたように、球磨川にもものすごい量の堆積物があります。子どもたちはだんだんこの町でも少なくなっていっていますけれども、私が今子どもたちに思うことは、このきれいな土地で、このふるさとをずっと胸に刻み込んで大きくなってほしいなというふうに思っております。そのためにはやはり、創造的に、ダムということだけに頭を置かないで、早く土砂をのけてもらうということと、それから山も川もそれから田んぼも、みんなきれいな素晴らしい景色、この景観を子どもたちに伝えていきたいと思っています。そのためには、やはり知恵を絞って、今まであったものを使うんじゃなくて、ダムという頭だけではなくて、創造的に豊かな地域を残してもらうようお願いしたいと思います。以上です。

【発言者③④】

まずは、知事や当局関係者の方々、ご多忙のなかこのような会を開いていただきまして本当にありがとうございます。

まず始めに断っておきたいのは、私個人の意見ということにご留意していただきたいと思います。

私は今現在、大学生で、環境アセスメントや農業工学、地域創生などを専攻し、学んでいます。今年は新型コロナウイルスの影響にて、オンライン講義として実家である人吉・球磨にて家業の手伝いをしながら受けているなか、被災しました。

まず、川辺川ダムについて、さまざまな人が触れているため、意見をさせていただきます。

まず、川辺川ダムがあったとして、市房ダムとの事前放流にて今回の減災以下になるとは思いません。市房ダムは災害当時、最大貯水量90%以上であり、仮に川辺川ダムがあったとしても事前放流が滞り、緊急放流につながることは明確だと思います。自分の狭い知識で、誤っていたら申し訳ないのですが、2018年の西日本豪雨の際には、緊急放流時に亡くなられた方が出ているとなりますと、不安視すべきだと感じます。

そして、バックウォーター被害を最大化した瀬戸石ダム。支流流量の精密的検証も行っていない状況において、総合的治水を実現していくのは困難かと思えます。もちろんダムのことについて真っ向から否定するというものではありませんが、国交省の調査や代替案への取り掛かりを、あまりにも川辺川ダムを作成しようというようなデータを上げているのは明確であると感じることが多々あります。

総合的治水を考えるのであれば、国交省はもちろん、林野庁や環境省、観光庁など、多方面と熊本県や市町村が市長・町長のみには留まることなく、そこに住んでいる住民に対してインフォームド・コンセントをしっかりと果たすことによって進むべきであると思っております。

生業や魅力がなくなる地域になっていくことは、人口流出に直結することだと考えます。これから人吉・球磨に住まう者として後世に受け継いでいけるような、そんな人吉・球磨を私は残したいと思えます。以上です。

【発言者③⑤】

球磨川上流の湯前町に生まれ育った者としては、人吉以下の被災されている方々が安心して暮らせるように、県や国は復興・復旧に本当に急いでいただきたいというのが第一の思いです。

二つ目は、球磨川の河川改修の要望がありますが、この湯前町でも県営第二発電所の左岸の地区は集落があるのに、河川、護岸整備がされていません。また、

湯前町内の中小河川も土砂が溜まりました。夏休みに子どもが橋から川に飛び降りて、川遊びをする湯前町の下町橋というところで、今でも子どもたちが遊んでいます。豪雨の後に見ると、もう水はきれいになっていますが、「おいおい、ここから飛び降りたら大けがするぞ」というふうに土砂が溜まっています。中小河川の河川整備をしていただきたいと思います。

湯前町には、牧良川の上流のほうに、スリット型の土砂止めを作っていました。建設中に見に行ったときには旧道の下から見上げるような高さだったんですけれども、7月3日・4日の豪雨によって、一夜に土砂がスリットの砂防ダムの上端にまで達していました。もし、これがなかったら、その下流にある集落はもっと被害が大きかったと思います。

そしてまた、この砂防ダムがあるから見に行きますと、川の水を迂回させて、溜まった土砂をある程度水抜きさせてから、重機でダンプにどんどん運んでいました。だから、復旧作業も大変迅速にできるようになっていると思います。他の河川でも大規模な施設は絶対環境破壊が大きくなると思いますが、小さな規模で、それぞれの河川でこういうことをやっていただいたら、球磨川本流への土砂の流入も減り、災害の減災にもつながっていくと考えています。

最後にもう一つは、流域住民の命を守るということでは、東北の大震災以降、正常性バイアスという言葉がテレビでよく聞くようになりました。メモをして忘れないようにしているんですけれども、私の家では86歳の母が寝たきり状態になっています。役場から避難してくださいといわれる時点で、もう避難はできません。7月3日・4日も母のベッドのそばにいて「どうかなったら、母を捨てて逃げるか、共に被害を受けるか」という思いをしました。ですから、私はもうこれからは、7月の大雨のときには、施設に事前に預けておく、そういうことをしなければ母を守れないと思います。それは、やはり自治体は住民の方に「うちは安心だ、自分は安心だ」ということはこれからありませんよということ、強く訴えていただきたいと思います。以上です。

【発言者③⑥】

私がお聞きしたいのは、今度の洪水で川辺川、球磨川の合流地点であるくま川鉄道の鉄橋が流されました。今は、くま川鉄道で通っている高校生は、バスで行っています。この前、雨がよく降りまして道が通れなくなったこともありました。これから先、上球磨の将来のある子どもたちが、高校に行くとき、くま川鉄道で行かせたいと思っております。私の娘も高校に行くとき、くま川鉄道で行ってありました。その孫も高校に来年から行きます。くま川鉄道で行きたいと言っておりますが、県はくま川鉄道をどう思っておられるか、お聞きしたいと思っております。終わります。

【発言者③】

本日は知事をはじめ、関係者の皆様方には大変お疲れ様でございます。

早速始めさせてもらいますが、私事で大変恐縮ではありますが、水上村には市房ダムがある関係から、ダム問題、そして関連した球磨川の河川整備計画などに大変興味を持ち、私当時の議員として長年にわたり一貫としてこの問題に取り組んでまいりました。

申すまでもなく、人吉・球磨地方は、特異な地形で、気象変動の影響が深刻化するなか、これまでの治水対策だけでは異常気象に対応は難しいと感じていましたが、早くも7月の豪雨でそのことが実証されました。これからもますます異常気象が進む中、豪雨が繰り返さないという保証はありません。本当に異常事態であります。

そこで、私も球磨川治水対策の方向性に少しでもお役に立ちたいとの思いで、知事への直行便にて穴あきダム建設の取り組みを提案させていただきました。その内容は、人吉・球磨地方の河川の上流には大小さまざまな無数の谷があります。この地形に合わせ必要性、そして地域に合わせた無数の治水ダム、流水ダムの設置で、全体の流水量をコントロールするだけの数の穴あきダムの設置であります。

報道によりますと、川辺川ダム建設論が復活しており、しかも貯水型か流水型かの選択論まであり、驚いております。このように一極集中型の議論だけでよろしいのでしょうか。私はまず、流域全体で水害の危険性を減らす流域治水を検討すべきだと思います。

しかも、これまでの治水対策は、中流・下流が主で、その流域には多くの住民が住んでおられ、土地も利用価値が高く、そのリスクも大きいわけではありますが、反面、上流はそのリスクも少なく、谷々に遊水地を設置することは、下流へのリスクも少なくなり、人吉・球磨独特の球磨川流域治水になると思います。

次に、今日の資料について申し上げます。5ページに市房ダムのことがございます。市房ダムの操作の変更、これは理解できます。次に市房ダムの有効活用がございまして、その次に10ページに堤防かさ上げとありますが、これは今のダムのかさ上げと思いますが、これはこういった機会はめったにございませんので、大変失礼ですが率直に申し上げさせてもらいます。

これは、先ほど申し上げましたように、私ダムのことをずっと市房ダムの建設当時も勉強しておりますので、これはとてもできないことだと思います。

それから、18ページの流域治水の施策のイメージとあります。ここに遊水地の整備がございまして、これを整備されますと、洪水で整備された土地はほとんど河原になってしまうわけだと思いますが、そういった住民の、これは農民の方が主ですが、そういったリスクといたしますか、これはやはりいかがなものかと思

います。この分、上のほうに治水ダムの建設再生とありますが、このように、上のほうに遊水地を造ったほうが、ベストではないかと思えます。以上です。

【発言者⑳】

申し上げたいことは山ほどありますが、主として理念と社会のとらえ方を中心に提起させていただきます。

その前に、熊本県はかつて認知症対策モデルで熊本モデルという、絶賛されるすばらしいコンセプトを出し、国はナショナルスタンダードにいたしました。この度の大水害を奇禍といたしまして、すばらしい環境対策として第二の熊本モデルと絶賛されるようなものを知事をお願いしたいと思います。知事も熊本県職員も、その潜在力はあると私は信じております。

時代は、近代は終わりポスト高度経済成長社会に入りました。問題はそのような理念に立って我々が価値判断し、短期的ではなく長期的な観点から抜本的政策をできるかどうかにかかっていると思うのです。

例えば、例を上げますと、シカ、イノシシが増えすぎて山が荒れた、その原因は根本的には明治時代にオオカミを皆殺しにしたところにあるんです。国はオオカミを輸入して奥山へのオオカミの放流も検討したはずです。例えばそれに匹敵するような、江戸モデルをむしろ回復するようぐらいの覚悟で、今我々は対策をやるべきときにきていると思えます。

そのときに、蒲島知事がポストモダニズム哲学には、もう造詣は深いと思うのです。で、廣井良典さんという私の信奉している定常型社会というのを提起された学者を数年前お呼びになって、すばらしいシンポジウムをされました。廣井良典氏は、日本が世界に誇る学者でありまして、やはりグリーン・ニューディール、地域分散に関しまして、非常に先駆的な提起をしておられます。そのようなものを、いかに山の上流に住んでいる人たちの素朴な、日常的な江戸以来受け継がれてきた意識とリンクさせるかが最大の課題なのです。

その点において、球磨も熊本県も、やり方次第では全日本のトップに立てますよ。知事と県職員の皆様方のそのような観点における根本的な対策をお願いしたいと思います。

それは、短期的なものよりも長期的な対策を優先させるという、指導者にとっては辛い選択を伴うかもしれませんが、これはやはり指導者の宿命だと思います。ぜひ、そのような観点からグリーン・ニューディール、自然再生エネルギーを中心とした抜本的対策を希望いたします。以上です。

(以上)